

平成 29 年度 推薦入試試験問題（第一部 商経学科）解答例

問 1（30 点）

【採点のポイント】

- ・資料から、説明されている箇所を見つけることができているか。
- ・適切に文章として記述できているか。

【解答例】

地方で人口減少がより早く進んでいる原因は、これまで長い期間にわたって、地方の若年層が大量に大都市圏に流出し続けてきたことである。若年層は将来子どもを産む世代なので、地方の若年層が大量に大都市圏に流出してしまったことは、単にその時その時の地方の人口を減少させただけではなく、その後地方で生まれる子どもの数も大きく減ってしまうことにつながったのである。これに対して、大都市圏では、出生率は地方に比べて低いけれども、地方から若年層が大量に流入し続けてきた。このため、地方ほどには人口減少のスピードは早くなっていないのである。

問 2（70 点）

【採点のポイント】

- ・自分が住んでいる市町村あるいは鹿児島県に触れながら、地方の人口減少を食い止めるための対策を記述できているか。
- ・論理的に考えを記述できているか。

【解答例】

〔解答例 1〕

地方の人口減少対策として、若者を地元に着させることが必要だと考える。そのためには、若者に魅力がある職場を作りだしていくことが大切だ。私が住む町は、鹿児島県の中でも農業が盛んな地域である。この地域の特性を活かして地元で新しく雇用を作りだしていくために、農業をもっと盛んにしていきたい。

地元の農業をもっと盛んにする方法としては、農家の収入をもっと増やして農業をやりたい若者の数を増やすことが必要だ。農業をやっても企業に就職するより収入が見劣りすれば、若者が農業をやろうとする意欲を持ってないからだ。農家の収入を増やすためには、地元の特産品をブランド化してより高い値段で販売できるようにすることや、農産物の加工食品をたくさん開発する 6 次産業化を積極的に行うことが考えられる。加工食品の生産が盛んになれば、農業だけでなく、食品加工の工場で働く人や店舗での販売などの新しい雇用も作りだすことができるからだ。加工食品であれば、県内・県外の消費者だけでなく、アジアに輸出していきける可能性もある。6 次産業化を進めるためには、農家と地元の自治体、食品関係の企業、地元の金融機関などが連携していくことが必要だと思う。また、農業を始めたい若者のために、地元の空き家を格

安で貸し出したり、保育所の費用の一部を自治体が補助するなどのサポートも効果があると思う。

〔解答例2〕

私の地元は離島である。地元の高校を卒業するとほぼ全員が就職や進学で島外に出て行ってしまい、人口は年々減っている。地元の人口減少を食い止めるためには、新しい大学の設立と観光業をもっと盛んにすることが必要だと考える。まず、18歳で島を離れる若者を地元に着させ、さらに島外から若者を引き寄せるために、地元で新しい大学を作りたい。大学では、農林水産業や観光業に必要な専門知識を学べる学部を設ける。南国の海や森など自然が豊かな環境なので、こうした分野の勉強を希望する全国の若者がその魅力を求めてたくさん入学してくれれば、学生の町として地元の商店街も活性化することが期待できる。島の魅力を知った県外出身の大学生が島に着してくれれば、人口増加にもつながる。

次に、地元の大学で観光を学ぶ学生も協力して、行政や住民が地元の観光振興のアイデアを地域ぐるみで出し合い、観光を売りにできる島に変身させたい。観光が盛んになれば、新しいホテルや旅館、土産物、交通機関、観光ガイドなどで新しい雇用を作りだすことができる。1つの離島だけでは多くの観光客をひきつけるのは難しいと思うので、他の離島とも連携した取り組みが必要だと考える。例えば、幾つかの離島が協力して、この地域全体を海のリゾート圏として、さまざまな楽しみ方をパッケージで提供していければ国内だけでなく海外からの観光客をもっと増やせるのではないかと思う。